


津山市みらい戦略ディレクター対談

稲葉なおとさん ～津山 美しい建築の街 再発見～

▶詳しい対談内容は
こちら 

問秘書広報室 ☎ 32-2029

津山市みらい戦略ディレクター制度では、各分野の専門家から意見を聞き、施策立案・市政運営の参考にしています。ディレクターの一人、作家・一級建築士の稲葉なおとさん（以下、敬称略）が市長と対談しました。詳しい対談内容は、市ホームページをご覧ください。

市長 稲葉さんは昨年、津山の建築を中心に約200点の写真と津山建築史を紹介した著書を出版されました。津山の魅力を、どう感じていますか。

稲葉 さまざまな用途の建物が時代を超え、使われながら現存することに驚きました。これだけ豊富な建物が残る「市」は、全国でも珍しいと思います。京都や金沢と異なり「知られざる」という点では唯一かもしれません。

市長 津山の建物のどこに魅力を感じていますか。

稲葉 江戸、明治、大正、昭和と各時代の美しい建築が複数点在することから、時代ごとの大工や設計者による技の磨き合いが見えてくる点です。例えば明治42年に、現在の作州民芸館を完成させた設計者は、明治33年築の津山高校の建物を超えようと尽力したのではないかと思います。こうした競い合いが見えてくる点ですね。

市長 津山の地域創生・経済戦略に必要なことは何ですか。

稲葉 看板や植栽を整理し、お金を掛けずに建築の魅力を甦らせることから始められてはどうでしょうか。個々の建築が輝けば、観光客の増加に必ず繋がると思います。



▲城西浪漫館2階に、2022年10月オープンした「浪漫館ギャラリー」(田町)で撮影

地域づくりだより ～大崎地域づくり協議会～

問地域づくり推進室 ☎ 32-2032

市では、地域が抱える課題の解決に向けて取り組む組織「地域運営組織」の活動を支援しています。

～子どもに夢と思い出、お年寄りに安らぎと生き甲斐を！～

「希望高等学園津山校との収穫祭」

農業体験を通じて地域と交流するため、約30人の生徒が、地域の人たちに教わりながらサツマイモと大根の収穫を体験しました。生徒たちは「農業の難しさや収穫の喜びを感じた」と話し、同日開催の「大崎マルシェ」で豚汁と蒸かし芋を味わいました。

ボランティアで参加した地域の方は「若い子と話すとうれが出る」と声を弾ませていました。



津山市と5町が連携して取り組んでいます

津山圏域定住自立圏

問みらいビジョン戦略室 ☎ 32-2027

津山圏域定住自立圏とは？

平成29年1月に津山市、鏡野町、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町の1市5町が協定を結び「津山圏域定住自立圏」が誕生しました。

急速な人口減少と少子高齢化への対策が各自治体の課題です。定住自立圏の取り組みは、自治体の枠を超え、広域的な視点で、都市機能の集約・整備や定住に必要な生活機能を確保し、津山圏域から都市部への人口流出を抑えることを目的にしています。

人が集い、安心して暮らす地域、持続可能な津山圏域を実現するため、連携・協力を強めていきます。



▼1市5町で連携し、岡山県に要望する様子 (美作県民局内で撮影)




～取り組んでいます～

高規格道路「空港津山道路」整備促進

国土交通省で計画している「空港津山道路」は津山圏域と岡山空港、県南地域を結ぶ高規格道路です。岡山市と定住自立圏1市5町は、早期整備と開通に向け連携しています。

津山圏域にとって空港津山道路は、暮らしの向上、経済の活性化、救急搬送の時間短縮、国道53号線の代わりになるなど、不可欠な道路です。

▶空港津山道路を紹介した動画を見ることができます 

特別支援教育推進センター運営

教育上の特別な支援が必要な幼児、児童、生徒の自立と社会参加に向け、適切な指導と必要な支援をする「特別支援教育推進センター」を1市5町で運営しています。市内の北小学校(写真下)、西小学校、津山西中学校では、専門員による指導や相談体制を強化し、子どもの可能性を最大限に伸ばす教育に取り組んでいます。



津山圏域定住自立圏では、上の2事業を含む全41事業に連携して取り組んでいます。詳しくは「津山圏域定住自立圏第2期共生ビジョン(令和4年3月)」をご覧ください。

津山圏域 第2期共生ビジョン 検索 